

日本性科学会 ニュース

第22巻第4号

平成15年(2003年)12月

発行人:野末 源一 印刷所:磯綯 文社

2004年研修会・学会・研究会の開催予告

1. 第33回性治療研修会

日 時 2004年5月16日(日)

場 所 東京慈恵会医科大学西新橋校(東京)

※昼休みに、平成16年度日本性科学会総会を開催致します。

2. 第24回日本性科学学会／第6回性科学セミナー

第24回日本性科学学会／第6回性科学セミナーを下記のとおり予定しております。皆様奮って御参加下さいますようご案内申し上げます。

会 期 2004年11月6日(土)午後～プレコンGRES 第6回性科学セミナー

11月7日(日)第24回日本性科学学会 学術集会

場 所 新潟市 朱鷺(とき)メッセ

学会長 内野英幸(新潟県小出保健所長)

メインテーマ 「人間行動学とセクシュアリティ:性の健康を創る 一生き方,育て方,学び方」

一般演題締切 2004年7月23日(金)

400字以内の演題要旨をe-mailにて下記宛にお送り下さい。

e-mail アドレス: huchino@guitar.ocn.ne.jp

〔お問い合わせ先〕

〒946-0004

新潟県北魚沼郡小出町大塚新田116-3

新潟県小出保健所 担当: 内野 英幸

電話: 02579-2-1145 Fax: 02579-2-6381

3. 症例研究会

2004年の症例研究会の予定は次の様になっております。

1月22日(木)堀口 貞夫 先生

3月12日(金)金子 和子 先生

5月20日(木)田中 奈美 先生

7月16日(金)渡辺 景子 先生

時 間 6:30～8:30pm

場 所 日本性科学会事務局

Vol. 22

№
4

日本性科学会

〒107-0062 東京都港区南青山1-1-1 新青山ビル西館3F

長谷クリニック内

TEL 03(3475)1780 FAX 03(3475)1789

第 18 回ハリーベンジャミン学会報告

東京家庭裁判所 針 間 克 己

2003 年 9 月 11 日から 13 日までベルギーのアントワープで開催された第 18 回ハリーベンジャミン学会に出席したので報告します。ハリーベンジャミン学会は正式には Harry Benjamin International Gender Dysphoria Association という、会員数約 300 名の性同一性障害に関する国際学会です。今日の性同一性障害医療の礎を作った内分泌科医 Harry Benjamin にその名の由来があり、学会会議は隔年ごとに開催されています。

今年は性同一性障害医療に精力的に取り組んでいるアントワープ大学医学部のあるアントワープで開催され、27 カ国から約 300 名の参加者でした。ざっとみた印象では、性同一性障害の当事者が 3 分の 1 ぐらい参加していました。日本からは、筆者のほかにも 8 名が参加し、口演一題、ポスター二題の発表がありました。

初日は、世界性科学会前会長でもあり、日本でもおなじみのコールマン学会長の基調演説「トランスジェンダーの健康促進」が行われました。日本では「病気である性同一性障害の治療」とした角度で語られることが多いですが、コールマン学会長の講演は「社会的性別を超えるトランスジェンダーの健康を促進する」という観点で語られました。たとえば「性別 2 分類にとらわれないこと、性別適合手術をしないとイケないという考えにとらわれないこと、性別とは連続的なもので、おのおのが自分の性別表現をすればいいこと」などが挙げられました。

夕刻からは「Legal Issues（法律問題）」で筆者が、日本の性同一性障害者特例法について発表しました。質疑応答では、「ペニス形成術は難しい手術だが戸籍変更に必要なのか」「変更要件が極めて医学的では」「子なし要件は必要か」「SRS 要件は必要か」等が議論されました。「法律が出来たことはすばらしいが、さらにより良いものにするべきでは」という考えが共有されました。

二日目も興味深い演題が続きました。ざっとポイントを列挙すると、「配偶者にカムアウトをいかにすべきか」「トルコでは、家族の無理解が強く大変」「性同一性障害の人も長生きできるように、きちんと調査、フォローが必要」「カサブランカで 1,000 例近い SRS をした外科医、George の軌跡」「120 例のペニス形成の結果」「2,500 例の陰形成手術経験」「一卵性双生児の性同一性障害一致例」「FTM ゲイのアイデンティティ形成」「ホルモン療法前の精子凍結」「性同一性障害医療従事者の被害体験調査」などです。

二日目の夜はオペラ座でパーティーでした。中世の香りを残す建物の中で、大変おいしいお酒を飲ませていただきました。

最終日は英国の「gender recognition bill（性別承認法案）」の説明に注目が集まりました。これは現在英国で準備中の性同一性障害者の性別変更に関する法案です。「性同一性障害との診断」「社会的にその性役割で 2 年以上くらしていること」「独身であること」の 3 つが要件で、手術をしていなくても性別変更が可能となる世界的に見ても画期的な法案です。2004 年春にも成立の見込みとのことでした。

報告は以上です。学会全体としては、さまざまな性別のありようを持つ人たちがよりよく生きていけるようにという強いエネルギーを感じました。次回は 2005 年にイタリアのボローニャで開催される予定です。

一般医療者向け「がん患者さんの性を支援するための研修会」報告

東京大学大学院医学系研究科 高 橋 都

近年、性科学領域と保健医療領域の双方で、慢性疾患とセクシュアリティに関する研究と実践の気運が高まっている。本稿では、「がん患者さんの性を支援するための研修会」実行委員会（註1）が、一般医療者の性相談のスキルアップを目的として企画・実施した全国研修会について報告する。

実行委員会では、国内外の文献レビューと性関連の研修プログラムを参考にして独自のプログラムを開発した。今回は特に女性がん患者に焦点をあて、各論では乳がんと婦人科がんを取り上げ、患者の性的パートナーは男性と想定した。参加職種は医師と看護職（看護師・助産師）に限定した。研修会の教育目標は以下の3点である。

1. 女性のがん（乳がん・婦人科がん）の治療に伴う性的合併症の基礎知識を得る。
2. 医療者として性の相談にのる場合の基本的スキルを身につける。
3. 参加者各自の職場で看護師と医師が連携して効果的な支援を検討するきっかけをつくる。

研修会は今年4月に東京大学で開催された。参加費は一万円（昼食、教材一式、持ち帰り資料を含む）。1都1府8県から33名の医療者（医師10名：男性3名・女性7名、看護職23名：全員女性）が参加した。

研修会は、1. がん臨床現場と患者の性：従来の問題点（講義10分）、2. 女性の性反応--総論（講義40分）、3. がんに性及ぼす影響--総論（講義30分）、4. がん種類別各論（婦人科がん、乳がん）（講義95分）、5. 基本的セックスカウンセリング技法講義・ロールプレイ（120分）、6. グループ討議「自分の職場で何ができるかを考える」（30分）、7. 国内の各種リソースの紹介（講義30分）という構成にした。（註2）

研修を通じて強調したのは、患者を「指導」するのではなく、当事者の個別性を最大限尊重した上で各カップルにとって「幸せな性」のあり方を見つける支援者を目指そう、というメッセージである。また、性相談のあり方のひとつとして、Annon（1976）による「PLISSITモデル」を紹介した。参加者には、男性用コンドーム（腔潤滑ゼリー塗布商品）、女性用コンドーム、腔潤滑ゼリー・ムースなどの参考商品と、がんと性に関する書籍や小冊子、乳がん患者団体作成のかつら情報等の資料も配布した。研修会場には、がんと性に関する書籍、関連医療機器（腔ダイレーター・バイブレーター）、自助グループ資料等を展示した。

終了後の評価では、約9割の受講者が、研修内容・自分にとっての有益さ・講師の質について「とても／まあ良かった」と回答した。ロールプレイについても約9割が研修に組み込む必要性を指摘し、「他の参加者が使う表現が参考になった」「医療者が話すタイミングの難しさを感じた。」「ついアドバイス（答え）を出したくなる」「自分の性意識にとらわれた意見を言ってしまう」「年上の人と話をするのが難しい」などの意見が挙がった。今後研修に取り入れてほしいテーマとしては、「患者さんの講演」「受講者同士の交流」「がん患者の配偶者の問題」「乳がん・婦人科がん以外のがんや慢性疾患と性」「高齢者と性」「性役割も含めたジェンダーの視点」「職種別の講習」などが挙がった。

実行委員会では、今回の経験を生かして研修会の定期開催を予定している。今後は、がん種類別のコースや、参加者の性相談習熟度別プログラム、半日プログラム等の開発なども検討したい。また、受講者が各々の職場で継続的に実践活動を行っていくためには、受講者の相互交流と経験の共有化を目的としたネットワークづくりが必要であろう。学会員の皆様からも、ご意見やアドバイスを頂ければ幸いである。

註1 実行委員会のメンバーは以下のとおり。大川玲子（国立千葉病院）・金子和子（日赤医療センター）・茅島江子（東京慈恵会医科大学）・高橋 都（東京大学）・渡邊知恵（東京大学）・渡辺景子（日本性科学会）・甲斐一郎（東京大学）

註2 本研修の内容と評価の詳細は、「一般医療者向け「がん治療後の性相談」教育プログラムの開発と評価」日本＝性研究会議会報15（1）、33-41、2003（日本性教育協会発行）を参照。

2004 年 日本性科学会 理事選挙に関する告示

理事選挙管理規程にしたがい、04、05 年度の理事の立候補を受け付けます。

立候補希望者は事務局にお申し出下さい。必要書類を郵送します。

なお、ブロックについては、第4回総会の承認に基づき、全国1ブロックとします。

1. 定 員 10 名以内
2. 立候補資格 2003 年 12 月末日現在、入会後満 3 年を経過し、会員 5 名によって推薦された正会員
3. 立候補締切 2004 年 2 月 15 日
4. 申 出 先 〒107-0062 東京都港区南青山 1-1-1 新青山ビル西館 3 F 長谷クリニック内
日本性科学会選挙管理委員会
TEL 03-3475-1780 FAX 03-3475-1789

2003 年 12 月 15 日

日本性科学会
選挙管理委員会
委 員
本 多 洋
針 間 克 己
本 郷 元 夫

選 挙 日 程

- 投票及び開票 3 月（実施の場合）
新理事の総会承認 5 月（予定）
新理事の公示 日本性科学会ニュース 04 年 6 月号

以 上

平成 15 年度資格認定結果報告

資格認定制度委員会委員長 阿 部 輝 夫

例年通り、本年 8 月セックス・カウンセラー、セックス・セラピストの資格認定申請手続きが行われました。同時に、資格認定制度施行から初の資格認定の更新申請も行われました。共に、厳正なる資格審査が行われ、その結果、新規資格認定においては、セックス・セラピスト 1 名、資格認定更新においては、セックス・カウンセラー 12 名、セックス・セラピスト 18 名が認定されました。

新規認定 セックス・セラピスト
石河 修

更新認定 セックス・カウンセラー
山崎 高明・廣井 正彦・石津 宏・長池 博子・島 典子・荒居百合子
佐藤 ち江・亀谷 謙・山中 京子・林田 昇平・中條 泰行・岡本 丈

セックス・セラピスト
長田 尚夫・河野 友信・山崎 高明・亀谷 謙・大川 玲子・村口 喜代
石津 宏・金子 和子・渡辺 景子・長池 博子・西 丈則・島本 雅典
石田 雅己・針間 克己・山中 京子・林田 昇平・森 泰美・岡本 丈

来年度も新規資格認定、並びに更新認定（1999 年資格取得者が該当）の申請手続きが行われます。申請を希望される方は、日本性科学会雑誌掲載の資格認定規定並びに資格更新規定をご熟読の上、ご準備をお願い致します。特に、学術集会・研修会などにご出席の際の受講証・出席証は、必ず保管してください。

申請の詳細は、2004 年 6 月発行のニュースに掲載されます。